

令和6年度 経営協議会の学外委員からの意見等に対する対応状況

令和5事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について

法人の基本的な目標、ミッション、ビジョンがあり、それを中期目標や中期計画に落とし込んで事業に取り組んでいるが、個別の評価指標に注目しがちで、経営協議会の審議を行う上で、全体としての大学のミッション、ビジョンとしての進捗の手応えが分かりにくいため、工夫が必要である。

（令和6年6月25日開催 第1回経営協議会）

＜対応状況＞

ミッション・ビジョンの進捗を確認するための工夫として、毎年度作成している業務の実績に関する報告書の概要版に、「Ⅳ. ビジョンの達成状況について」として項目を設けて、中期目標前文の「法人の基本的な目標」に掲げている各ビジョン（第4期中期目標・中期計画期間において達成を目指す事項）に対しての進捗度を自己評価した。これに基づき、令和7年度第1回経営協議会（令和7年6月24日開催）において、経営協議会委員からの評価を受けており、学内でもミッション・ビジョンとして掲げる重点事項に関する取組の見直しにつながったことに加え、個々の取組について更なる改善に資する貴重な意見を得ることができた。

令和5事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について

共創工学部について、入学した学生とのコミュニケーションを非常に深くしていただきたい。なぜ共創工学部を選んだのか、学生の期待感とお茶の水女子大学が提供する教育とがミスマッチを起こしている可能性も新しい学部ではあり得るので、それを見極めた上で、共創工学部の在り方をもう一度考える時期がたぶん来るだろうと思う。その点について、意を用いていただければと思う。

（令和6年6月25日開催 第1回経営協議会）

＜対応状況＞

学生の期待感とのミスマッチを防止するため「共創工学学修ポートフォリオ」を導入し、学修の自己管理・自己評価に繋がれるような取組を行っている。共創工学部では年に1回は必ずこのポートフォリオに基づいた個人面談を実施することとし、学生が自身で立てた学習目標、それに対する自己評価、学習成果等の情報をもとに教員と対話し、次の学習計画を一緒に考えていく仕組みを構築している。

令和5事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について

コンピテンシー育成開発研究所については、学生が手に入れたコンピテンシーを対外的に公表することによって、就職等に活かすなどの取り組みをしたほうがよいのではないかと。

（令和6年6月25日開催 第1回経営協議会）

＜対応状況＞

学生が活用しているコンピテンシー可視化システムの中に、就職活動に用いる応募書類の1つとして添付可能なレポートの出力機能を令和7年4月に設けた。

出力される項目は

- ①コンピテンシー・チェックの結果
- ②授業におけるコンピテンシー育成経験期待量（ポイント）
- ③履修授業明細であり（添付）、現在、ディプロマ・サプリメント（学位証明の補足資料）化に向けて、公的証明の機能を備えうるかを検討中である。

令和5年度決算について

資産運用によって財務体質を強める体制を作っていくことを考えていく必要がある。

(令和6年6月25日開催 第1回経営協議会)

＜対応状況＞

経営協議会学外委員の意見も踏まえつつ、資金運用規程第4条（資金運用の基本原則）に従い、安全性及び流動性の確保を前提とした収益性の向上（効率的な運用）を図る資金運用を実施した。その結果、令和5年度末時点の資金運用額4億円を、令和6年度末時点には7億円へと拡大した。これによって約500万円の運用益増加が見込まれることとなった。

意見交換（お茶の水女子大学の国際化促進のための取組について（継続事項））

「五女子大学コンソーシアム」設立の原点に立ち返り、何か国際的な貢献をする時期にあるのではないかと考える。

(令和6年6月25日開催 第1回経営協議会)

＜対応状況＞

五女子大コンソーシアムについては、令和6年度から5女子大学の学生が参加する国内研修を実施している。令和6年度に8名の学生を派遣したことに続き、令和7年度は「自分でできる国際協力、地域社会でできる国際協力」をテーマとした国内研修を実施予定であり、各大学から3名、計15名が参加予定である。参加者は既にある程度の国際協力活動への参加経験がある者が多く、今回は、特に地方自治体による国際協力活動や、JICA ボランティア、ジェンダーに係る国際協力プロジェクト紹介への関心が高い学生が集まっている。また、同研修には、本学から参加する留学生（修士課程）がグループライダーを務め、訪問先等で全体を統括する役割を担う。

意見交換（博士課程人材の育成について）

- ・大学のアカデミックの中にいる探究心が旺盛な人も、いずれは社会に役立ちたいという意識を持って研究するとよいのではないかと考える。
- ・企業の中に入っていくことをサポートするというメッセージを大学として出していくことは、これからの動きとして重要である。また、外部資金への応募という形で構想することも大事であり、進めていってほしい。
- ・キャリア支援メニューについて、企業との交流会、産官学の女性博士との懇談・交流会に加え、アントレプレナーを目指すこと、ベンチャーに参画していくこと、社会的企業家として新しいものを作っていくことにも結びつく機会があると非常によいのではないかと考える。

(令和6年10月15日開催第2回経営協議会)

＜対応状況＞

本学は令和6年度に科学技術振興機構の「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）」に採択され、博士課程人材を育成するための支援体制を強化している。本プログラムは博士後期課程学生による挑戦的・融合的な研究を支援し、優秀な博士人材が様々なキャリアで活躍できるように研究力向上や研究者能力開発を促す事業である。本学が実施するプロジェクトは、『「革新」×「共創」で未来を拓く女性博士育成プロジェクト T-COCoA（Transformative Co-Creation and Optimization in Career Opportunities for Advanced Scholars）』であり、令和7年度より23名の学生を支援している。本プロジェクトでは、選抜された学生への生活費・研究費を支援するとともに、キャリアパスの多様化を推進するためのキャリア支援メニュー等を用意し、選択必須科目の中に、DXを用いたビジネス創出体験や最先端企業のイノベーション最前線に触れる科目を作り上げていく機会を提供している。

意見交換（お茶の水女子大学の広報活動への助言）

- ・保育園や幼稚園からある複合的な学園のため、文京区や地元の保育所も含めて、何か広報ができるような仕組みを考えていただきたい。地元の人たちを巻き込むような形で広報するには、1～2枚のパンフレットでも紙ベースで渡すなどがよい。
- ・Instagramにぴったり合ったようなコンテンツをタイムリーに出し、ニュースリリースも付ければ、他のメディアからお茶大のInstagramへの関心につながるのではないかと。また、オープンキャンパスで、ここがお茶大の最も美しく映る場所だということに150周年のロゴなどを設置したフォトスポットを設けてSNSでの発信を誘導するなど、他の人の力をいかに借りるという提案があった。

（令和7年1月21日開催 第3回経営協議会）

＜対応状況＞

- ・学部オープンキャンパスでフォトスポットを設け、SNSへの写真投稿を呼び掛けた。
- ・文京区に依頼し、学報GAZETTEを文京区内施設に配架。また、広くご覧いただける広報物として、創立150周年関連のリーフレットを作成し、GAZETTEと同様、区内施設への配架を依頼した。
- ・卒業生や地域の方をはじめ広く参加いただけるイベント（3月、8月）を企画し、同リーフレットを配付した。

意見交換（1年間の振り返り）

英語による授業をどれだけ増やしていけるかが大事なことだと思う。創立150周年記念事業として国際的な催し等も行おうとよいのではないかと。

（令和7年3月18日開催 第4回経営協議会）

＜対応状況＞

創立150周年にあたる令和7年度は、創立150周年記念事業として、令和7年11月末までにシンポジウム等13のイベントを実施・予定しており、その中で国際的な催し等も以下の通り、実施・予定している。

- ① ビジヨナリー育成プロジェクト：経営協議会委員であった久能祐子氏の支援により、令和7年に「お茶の水女子大学創立150周年記念大学経営ビジヨナリー育成プロジェクト」を実施した。将来大学運営を担っていくことが期待される女性教員の向上心やマネジメント力を高め、国立大学のマネジメント層のダイバーシティを推進することを目的とし、ワシントンD.C.とニューヨークにて研修を実施した。お茶の水女子大学、京都大学、東京大学から計9名の女性教員が参加した。
- ② グローバルインターンシップ成果報告会：英語を共通言語とする国際的な環境に身を置いた学生たちがEDI（平等性、多様性、包摂性）に取り組むさまざまな組織の中で約2週間のインターンシップに取り組んだ学習成果を英語で発表した。
- ③ 創立150周年記念国際シンポジウム：創立150周年記念式典の前日に仏・ストラスブール大学学長を招き、大学レベルの学術交流の意義に焦点を当てた国際シンポジウムを開催する。